

岩橋亜希菜氏 講演会 & 録画配信

アントロポゾフィー 基礎講座 (連続8回)

参加費 3,000 円 録画配信 2,500 円

レインボーサークル会員参加費 2,500 円 録画配信 2,000 円

場所 大東市公民館 JR 学研都市線住道駅下車 500m

申込 happy@rainbow-circle.com

一般社団法人はっぴーれいんぼー講演会担当 梅野佐知子

振込みを以てお申込み完了となります。

振込先 ゆうちょ銀行 14050-37384431

ゆうちょ銀行以外からの振込 店名：四〇八 (読み ヨンゼロハチ)

店番：408 預金種目：普通預金 口座番号：3738443

申込締切 11月11日(木)

第1回

七つの生命プロセス

2021年11月14日(日)

10:00-11:30

大東市公民館 JR 住道下車 500m

定員 20名 運営メンバーを含む

部屋の定員の半数以下にしています

第2回

人間の9つの領域

2022年3月13日(日)

10:00-11:30

会場未定



©Akina Iwahashi 2021

社会、地域の慣習、倫理観、自由、未来、欲望など、それらの狭間の中でそして生きることの意味を考えることもあるでしょう。危機的状況に出会うたびに、日常では意識しない問題が心を揺さ振り、身体を硬直させ、どうして良いか分からなくなってしまうこともあります。アントロポゾフィーはそんな世界に俯瞰的な視点を与え、同時に自らがその変動を生む当事者であることを認識させ、行動の羅針盤となるような存在です。しかし科学と言う世界を分割し、限定された世界で物事を物質的な思考方法に慣れていると、それが影響してアントロポゾフィー的な見方がわかり辛く混乱をしてしまうこともあります。

そこで8回に亘って基本的な事柄をどのような場でも使える動きのあるかたちとして整理したいと思います。



講師プロフィール 岩橋 亜希菜

東京都出身芝浦工業大学工学部建築学科卒業 1989年-90年度国際ロータリー財団奨学生としてアントロポゾフィーの芸術大学、アラーヌス造形芸術大学建築学科(ドイツ・ボン＝アルフター)に留学

シュタイナーの理論とこれを基にした芸術論、建築を学ぶ。1991年10月卒業 Diplom 取得

2013年6月 シュタイナーの影響を受けた現代の建築家15名の展覧会(ベルリン)に招聘・出展

講座にご参加出来ない方は、講演を録画記録されたものをご希望の方に URL で配信します。尚、質疑応答の部は入りません。そして録画は出来ません。視聴期間 11/19-11/21 コロナ感染対応についてご協力お願い申し上げます。参加される方はマスク着用をお願いします。37.5度以上の方、風邪症状のある方はご参加できない旨ご協力お願い申し上げます。当日体調不良の場合でキャンセルの場合には返金いたします。個人都合のキャンセルの場合は返金はできません。消毒液(植物由来)設置いたしますので、入室前のご協力をお願いします。換気を実施します。

シュタイナー生活介護施設と 個別療育の児童発達支援・放課後等デイサービス にじいろのうちに

一般社団法人はっぴーれいんぼー 大東市泉町2丁目13-5 〒574-0024 HP: happy-r.jimdofree.com Mail: happy@rainbow-circle.com



第 1 回 “七つの生命プロセス”

2021 年 11 月 14 日 (日) 10:00 – 11:30

大東市公民館 (JR 住道駅下車 500m)

呼吸や食事など人間としての存在を保持する働きを私たちは 7 つの生命プロセスとして持っています。これは単なる生命維持の働きではなく、感覚と同様に物質的な外界と内的世界を繋ぎ、物質界での行動基盤となるもので、感覚活動の基礎でもあります。外界の食物として取り込んだ鉱物が体内で栄養として変化するのもこの 2 つの共同活動であり、双方があって始めて人は身体的にも精神的にも成長できることで、それは人間進化の過程で身体形成を終えて、更なる叡智を求めて外界に目をむけたことに由来しますが、この過程は今でも人の成長過程として継承されています。今回は人間進化過程を含め成長過程に於ける生命プロセスの役割と感覚との関係や宇宙との関係にも触れながら、食と栄養摂取に関してもアントロポゾフィーの観点からお話をしたいと思います。

第 2 回 “人間の 9 つの領域”

2022 年 3 月 13 日 10:00 – 11:30

会場未定

人間は物質として現実世界に立ち、醜美を感じる世界で揺れ、摂理や法則といった目に見えない世界を通し真理を見ます。私たちはこのように 3 つの世界に係り、3 様の活動をしていますが、その世界は干渉し合い、不連続統一体として世界の循環の中に私たち人間存在を形成しています。医療の領域では、病気は体 (Leib) に係ることとして、3 つの体と自我を含めた 4 つを身体の中で働く「機構」と捉えますが、これら 3 つの世界の干渉し合う場所を区別してみると、それぞれが 3 つの領域をもっている連続体として 9 つの異なった領域が現れます。私たちにとって人間という対象は最も身近な存在です。ヴァルドルフ教育が体験できる最も身近な領域から学びを始めるように、人間のあり方からアントロポゾフィーの視点を創ることは、世界を見る良い基盤になると思います。

第 3 回 “感覚、認識、表象” 2022 年 8 月

私たちを外界と関係を結ぶ窓が感覚ですが、いくつの感覚を持って世界に対峙し、個々の感覚が何を捉えるのかがはっきりしないと私たちは世界でその居場所を把握出来ませんし行動への基盤を見失います。人間の発達と成長にも重要な感覚と、これに続く知覚、認識などを含めて世界との関係を探ります。

第 4 回 “思考・感情・意志” 2023 年 3 月

感じ、考え、行動へ移すことは人間が内面で行う 3 つの活動で、私たちの行動を左右します。人間しか持たない思考という能力によって動物とは異なる我々の内的な活動を視界に捉えることで、成長の手掛かりをも見出すことが出来るでしょう。熱の変容でもあるこれらの働きを考察します。

第 5 回 “魂の働き=快と不快、共感と反感” 2023 年 8 月

他者が踏み込むことの出来ない自分だけの内的世界が魂です。そこで私たちは感じ、理解し、悩みながら行動への判断を行っています。そんな場の環境は発信と受信の 2 方向の基本的な動きを持ち、その強弱が外界への行動や他者からの発信の受け取り方を左右しています。物質と精神を繋ぐ行動の中心=魂の動きを察します。

第 6 回 “自我について” 2024 年 3 月

人間だけが持つ自我は、自分が行うあらゆる行為の当事者として御者であり、その結果の受容者でもあります。自我は魂をその活動世界としてはいますが、物質界や霊的世界とも係り、成長も衰退もします。太古の時代にはヴェールに覆われた神とされた自我について、人間身体の基本領域や分節部分との関係を含めて考察します。

第 7 回 “行為と責任とカルマそして自由” 2024 年 8 月

私たちは過去に自らが創った課題や成果をカルマと呼ばれる生きる前提条件を持って生まれ、未来に向けて現在を生きてゆきます。人生は己のカルマを見出すことと、カルマを超える力である自由の開発によって変わります。カルマの起源や自由とカルマの関係を通して現在を生きる意味を探ります。

第 8 回 “まとめ” 2025 年 3 月

1 から 7 まで学んだ内容を治療と教育の観点からの考察を軸として実際の生活や活動の内に、どのようにアントロポゾフィーの視点を結び付け、事物の見方や捉え方に物質界の外にある視点を加え指針として生かして行けるのか、実際の状況を例としながら、7 回の学びをまとめたいと思います。